

米原歴史街道

米原市の歴史・文化財を歩く

150

復興を支えた伊吹山 ―セメント産業のあゆみ―

滋賀県最初の工場誘致

―こだまも楽し♪ 工場の響き♪―

これは、米原市立伊吹小学校の校歌の一節です。昭和四〇年代後半頃、伊吹山麓で煌々とライトに照らされていたセメント工場を憶えている方もおられると思います。深夜もフル稼働していた工場。山から延々と続くベルトコンベア。現在も現役のコンベアが、伊吹山を背景に形成するシャープな産業景観は、伊吹地域の隆盛ぶりを今に伝えています。

伊吹山での石灰産業のルーツは、寛文元年（一六六一）、石灰商売についての文書（小泉藤田家文書）に初めて見られます。良質な伊吹山の石灰は「真の石灰」と呼ばれ、貞享四年（一八〇〇）頃には、石灰を扱う会所が設立され、最初の黄金期を迎えます。文政六年（一八二二）には、大久保で山麓の広範囲にわたって石灰生産や採石が行われていました。

石灰石はわれわれの生活に欠かせないものです。都市の基盤をつくるセメントやコンクリート、ガラスや薬品、紙、砂糖、ゴムなどの化学製品、お菓子、歯磨き粉のほか、環境浄化や消毒などにも用いられています。江戸

時代の石灰産業が廃れ、地場産業がなかった旧伊吹村や春照村は、第二次世界大戦後、いち早く地域の復興に動きまわります。伊吹山の石灰石は埋蔵量が多く、品位も良質で本邦石灰石鉱山の最上位にランクされていました。さらに、原石山（鉱山）は東海道本線近江長岡駅に近く、鉄道輸送に便利なことなどから、大阪窯業セメントを積極的に誘致しました。昭和二四年（一九四九）、新工場の建設が決まると、地元は献身的に協力し、セメントに必要な水は既設の用水路を、工事用の夜間照明には家庭用の電源を提供、約五万坪の土木工事には村人が積極的に加わり、「山村の希望」といわれたセメント工場は、三年の歳月をかけ完成。セメント専用側線に蒸気機関車が走り出しました。新幹線、高速道路、東京五輪、大阪万博などで需要は一気に加速。砂糖、肥料と並んで「三白景気」といわれる好況を謳歌しました。

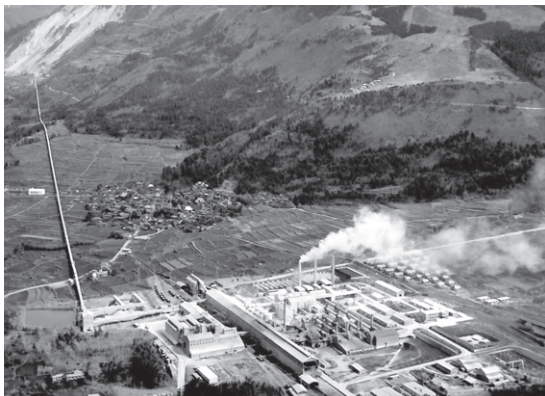
セメントとともにあゆむ

ピーク時（昭和四八年）には六〇〇人もの従業員がおり、うち半数は地元住民でした。関連会社を含めると、伊吹村の大半は

セメント関連の従事者。買い物をするには、長浜や大垣まで足を延ばしていましたが、春照に商店街ができ、長浜から出張する店もあつて、たいいていの品は地元で間に合うようになりました。会社の景気や従業員の懐具合が売り上げに響くとあつて、会社の作業服姿は大変な信用でした。旧伊吹町では、会社が支払う固定資産税や事業税を元にインフラ整備が行われ、県下では大津市、瀬田町などとともに、国から地方交付税交付金を受けない数少ない富裕自治体でした。しかし、隆盛を極めたセメント産業ですが、一九九〇年代国内需要が落ち込み、平成一五年に生産が中止されました。

日本の復興を支えた伊吹山、今も山麓を突っ切るコンベア。この光景は、山麓に住む者にとっては、誇るべき文化的景観なのです。

（歴史文化財保護課）



▲セメント工場全景(昭和37年)

消費生活相談コーナー

電子マネーを利用した詐欺に注意！

インターネットで知り合った人から「芸能人に会わせてあげるから、電子マネーのIDを教えてください」と言われた。購入した電子マネーのIDを伝えたら、その後連絡がとれなくなった。



消費生活相談員より一言

簡単に購入・譲渡できる電子マネーは悪用されることが多いです。一度電子マネーのIDを教えてしまうと、お金を取り戻すことも難しいため、電子マネーのIDは人に教えないようにしましょう。

「おかしいな」と思ったら
一人で悩まず、
まずは消費生活相談窓口へ
ご相談ください。

市 消費生活相談窓口（米原庁舎）

相談専用 ☎52-8088

〔受付〕平日9時30分～16時



【米原警察署情報】 問 米原警察署 ☎52-0110

1月10日は「110番の日」

滋賀県内の110番通報は、全て大津市の滋賀県警察本部 通信指令課につながります。

通報から、警察官が到着するまで

パトカーの位置は常に通信指令課で把握しているため、通報現場に一番近いパトカーへ急行指令を出します。

110番通報についてのお願い

・通報者は、警察官が来るまで現場に留まり、説明をお願いします。

・事件事故の早期検挙・解決のためにご協力ください。

・110番通報は「緊急事態専用電話」です。

お問い合わせや各種相談は「#9110」や米原警察署へお願いします。



令和元年市内交通事故数（11月末時点）

件数 86件（-11件）、死者 2人（+2人）

傷者 118人（-7人）

※（ ）内は前年比

